

「2040年に向けたサービス提供体制等の在り方」 検討会

介護人材確保・定着、テクノロジー活用等による生産性向上

「介護テクノロジーの活用 及び職場改善の取組について」

社会福祉法人友愛十字会

法人本部事務局 介護生産性向上推進室長

特別養護老人ホーム 友愛荘 施設長

鈴木 健太



共に生きる

社会福祉法人 友愛十字会

社会福祉法人 友愛十字会

創立：1950年9月25日 本部：東京都世田谷区砧

法人理念：「共に生きる」

友愛荘



開設：1974年11月1日

居室形態：混合型

入所定員：従来型 40名

ユニット60名

併設 SS 10名

平均年齢：87.1歳 (2025.1.1現在)

要介護度：3.85 (2025.1.1現在)

砧木一ム

開設：1992年4月1日

居室形態：従来型

入所定員：従来型 60名

併設 SS 4名

平均年齢：88.5歳 (2025.1.1現在)

要介護度：3.86 (2025.1.1現在)

基本情報

- ◆ 社会福祉法人 友愛十字会 ゆうあいじゅうじかい
- ◆ 介護老人福祉施設
- ◆ 東京都世田谷区
- ◆ 利用者数:52名 従業員数:32名

※利用者数及び従業員数は令和5年2月1日時点

選考委員の総評

介護現場における生産性向上について、ガイドラインを有効活用することで、自施設の考えをうまく職員に浸透させており、他の模範となる取組といえる。

生産性向上に資するガイドラインが示す 業務改善の取組(7つの項目)



インカムと移乗支援機器 を活用した介護



取組概要

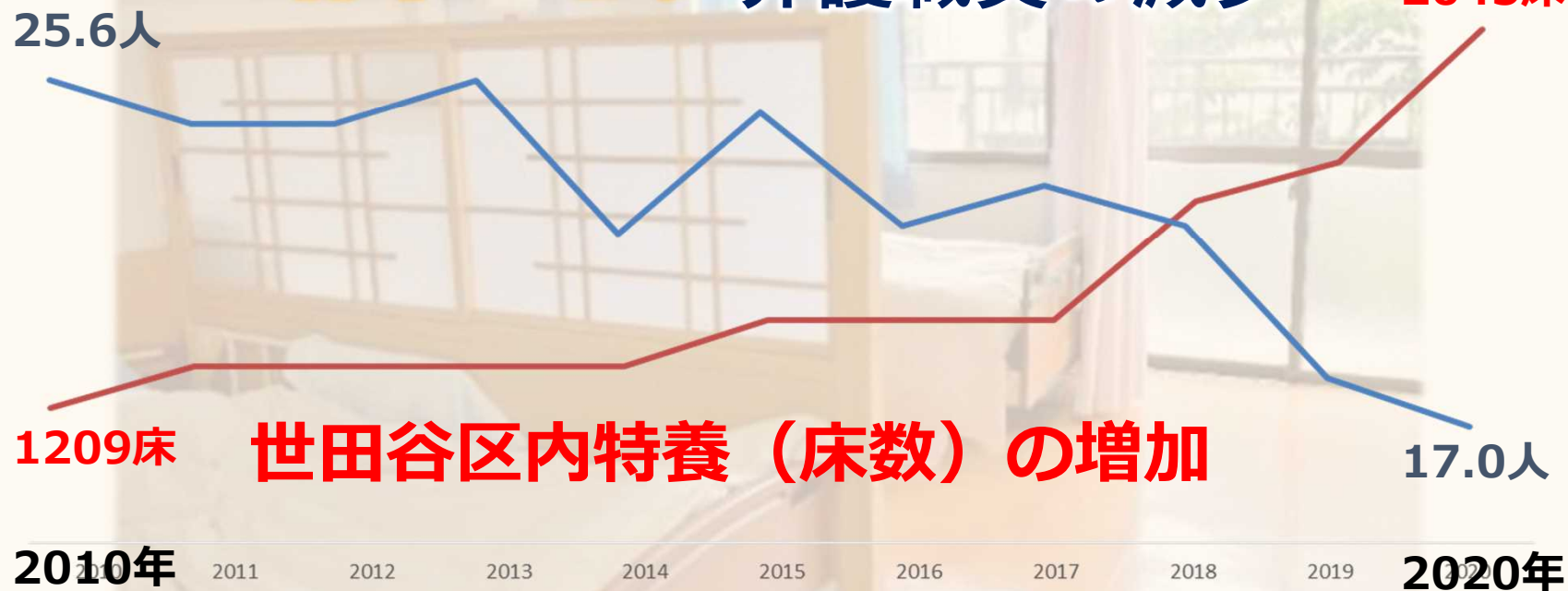
- ・ **介護ロボットやICTの導入**に先駆的に取り組み、見守りセンサーやインカム等のテクノロジーを効果的に活用することにより、**過去6年間(平成29年4月～令和5年3月)に入職した常勤介護職員(10人)の離職者ゼロ**や**介護事故の発生件数の6割削減(平成30年度と31年度の比較)**といった効果を生み出している。
- ・ **平成30年度に厚生労働省が作成した「生産性向上に資するガイドライン」**を施設運営のバイブルとし、**当該ガイドラインの要素を自施設の事業計画に盛り込む**などにより、生産性向上に対する職員の理解を促しながら**介護現場改革を推進**するとともに、**多職種協働原理(※)**による**ケアの質の向上**に取り組んでいる。

※介護職の質がケアの質に直結するという考えのもと、介護職をメイン職種と位置づけ、他職種が介護職をサポートすることで、その力を最大限引き出すという考え方

世田谷区内特別養護老人ホームのベッド数（赤色）と
砧ホームのローテーション介護職員常勤換算人数（青色）

の推移 ※ 各年4月1日時点

砧ホーム 介護職員の減少



公休未消化300日/年以上

砧ホーム

②業務の明確化と役割分担 (2)テクノロジーの活用



④記録・報告様式の工夫



⑤情報共有の工夫



⑦理念・行動指針の徹底



多職種協働原理



Copyright © 2025 Kenta Suzuki

②業務の明確化と役割分担 (1)業務全体の流れを再構築



介護テクノロジー TB-eye クリアトークカム10 X10台



Copyright © 2025 Kenta Suzuki

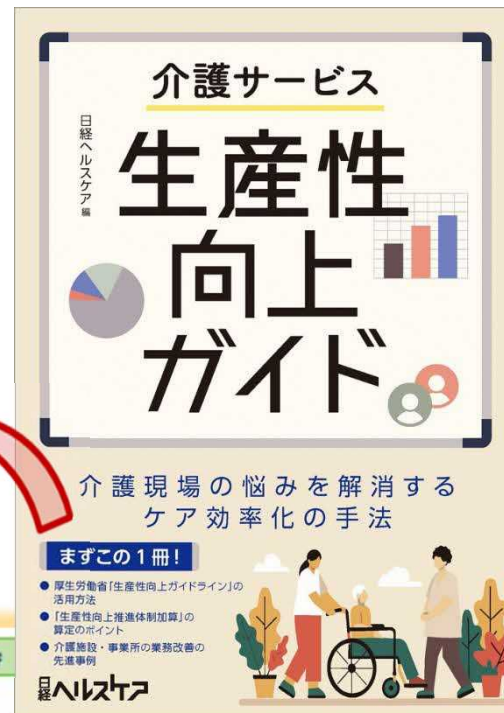
9

2016年 業務改善前	介護ローテーション	2022年～現在 業務改善後
3	夜勤明け 0:00～9:30	3
3	早番 7:15～16:15	2
3	日勤 8:30～17:30	1 (日曜0)
3	遅番 11:00～20:00	2
3	夜勤入り 16:30～0:00	2
15	合計	10 (日曜9)

②業務の明確化と役割分担

(1) 業務全体の流れの再構築

砧ホームにおける ローテーション介護職員数の変化



業務収替表	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時
夜勤明け 3人 16時30分～9時30分 (※深夜勤1人[0時～9時30分]を含む)	離床支援 ^{※2} 、水分補給、朝食介助、フロア・ナースコール対応 ^{※3}	問接業務								
早番 2人 ^{※1} 7時15分～16時15分	水分補給、朝食介助、排泄介助、配薬支援 ^{※4}	入浴介助	休憩	食事介助、臥床支援	入浴介助、風呂掃除	問接業務				
日勤 1人 ^{※1} 8時30分～17時30分		臥床支援、フロア・ナースコール対応、水分補給、食事介助(配膳中心)	休憩	排泄介助、水分補給、フロア・ナースコール対応	水分補給、レクリエーション、イベントなど	問接業務				
遅番 2人 11時～20時				離床支援	食事介助、配薬支援、排泄介助、フロア・ナースコール対応	休憩	問接業務	夕食介助	問接業務	
夜勤入り 2人 16時30分～9時30分							問接業務	離床支援	配薬支援	歯磨き、着替え、臥床支援
計 10人 ^{※1} (週当たり69人が必要)										ナースコール対応ほか

【出典】 日経ヘルスケア 編、「介護サービス生産性向上ガイド

介護現場の悩みを解消するケア効率化の手法」、株式会社 日経BP、2024年11月18日



眠りSCAN

権利擁護

201号室
砧 太郎

50 10

「睡眠」

202号室
砧 次郎

51 10

「覚醒」

203号室
砧 三郎

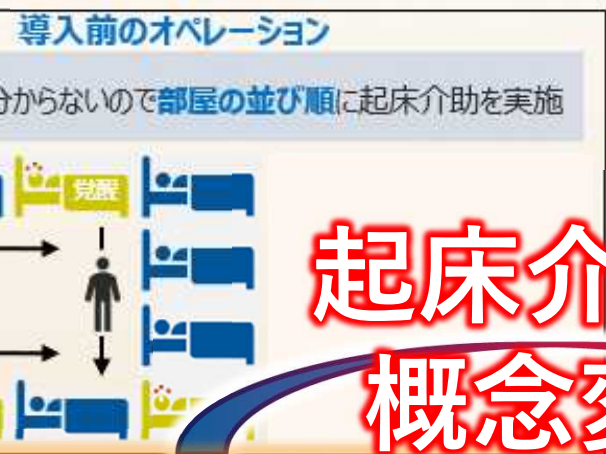
「起き上がり」

205号室
砧 五郎

「離床」

見守り機器 (バイタル系)

× 全床導入 + 大型モニター



起床介助の
概念変容



DX

眠っている利用者を
起こす支援

起きている利用者の
活動を広げる支援

「サービスの質の向上」のマネジメント

改善で生まれた時間を
どう使うか？



直接的

投資的

教育・研修の機会
残業時間の削減
有給休暇の取得



利用者と向き合う時間？
直接介護の時間？



質の高い
サービス



介護ロボット等導入支援特別事業(平成27年度補正予算)
「介護従事者の負担軽減に資する介護ロボット導入促進事業」
- 厚生労働省 老健局 高齢者支援課 -
(上限92.7万円、補助率10/10)

見守りケアシステムM1
×3台



【製品画像】メーカーHPより

2016年1月
初めて導入した介護ロボット

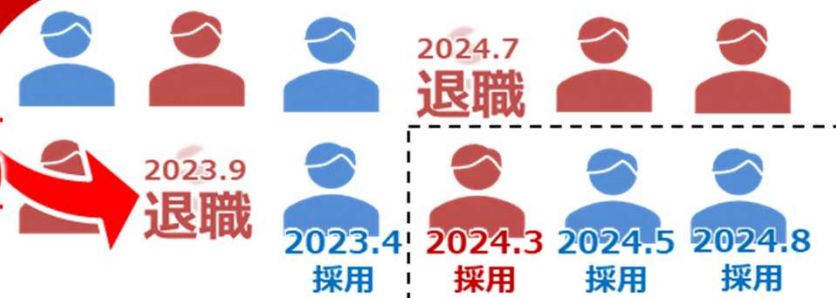
10



2017.4採用

6年間

離職0



介護テクノロジー導入以降<

6年間に採用した常勤介護職員10名の離職者0!

9年間に採用した常勤介護職員11名(13名中)が
就業継続中!(2024.12末現在)

2020年4月1日から(2023年8月まで)

常勤介護職員の離職率(3年)連続0%!

公休未消化
300日以上



感染症に備えるBCP

自然災害に備えるBCP

介護施設・事業所における
新型コロナウイルス
感染症発生時の
業務継続ガイドライン

厚生労働省老健局
令和2年12月

取組前

取組後



②
(
介護
明

介護サービス事業（施設サービス分）における
生産性向上に関するガイドライン

施設・事業所向け手引き

より良い職場・サービスのために
今日からできること
(業務改善の手引き) パイロット事業令和2年度版

厚生労働省老健局

介護施設・事業所における
自然災害発生時の
業務継続ガイドライン

厚生労働省老健局
令和2年12月

①記録・報告様式の工夫

タブレット・スマートフォンによる
データ入力（音声入
力含む）とデータ共有



職員
それ

分担

理的
軽減

職員



②理念・行動指針の徹底

の理
指針
いた
自律的な行動
職員が自身で
判断できない



担い手不足に備えるBCP

友愛荘

令和4年度
年間稼働率 **73.8%**

-6,200万円
=介護保険事業収入-3大費用※



令和5年度
常勤**介護**職員の
離職率 (届出) **39%**

常勤**看護**職員の
離職率 (届出) **100%**
(2年連続)

※3大費用 = 人件費+事業費+事務費

⑦理念・行動指針の徹底

イレギュラーな
事態が起こると
職員が自身で
判断できない

組織の理念や行動
指針に基づいた
自律的な行動



理念の具体化

③手順書の作成

職員によって異なる
申し送り

申し送りを
標準化



心理的安全性

⑥OJTの仕組みづくり

職員の教え方に
ブレがある

教育内容と
指導方法を統一



成長の可視化

令和6年度中間事業報告

年間平均稼働率

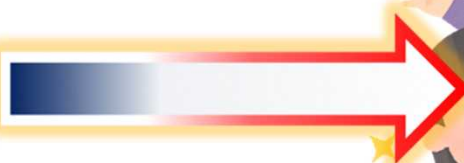
95.7%

(12月末時点)

+1,300万円

(年度末見込)

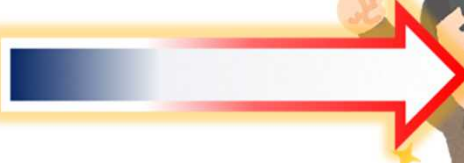
=介護保険事業収入-3大費用※



0%

新規**17名**
採用

(12月末時点)



0%

新規**6名**
採用

